神奈川県青少年指導員連絡協議会

青指だより

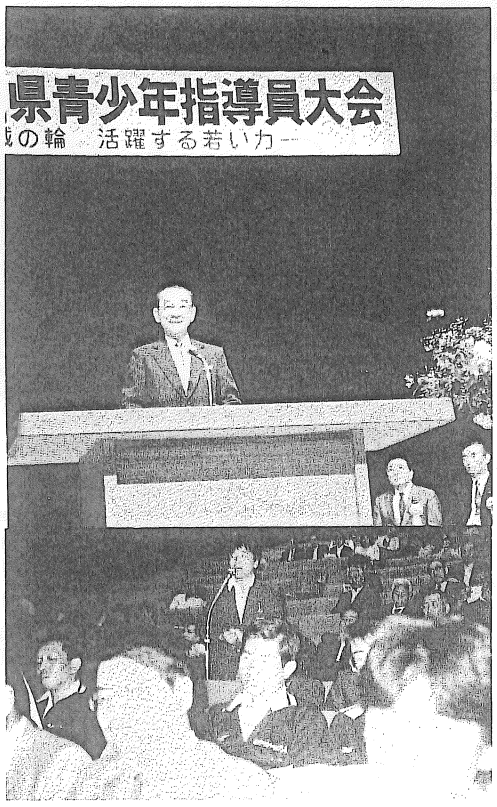
（仮　称）

第１号
―1989．12．10―
発行　神奈川県青少年指導員連絡協議会
印刷　秋　本　印　刷

活動のはしら

1　青少年団体の指導育成及び組織化
2　文化・レクリエーション活動の推進
3　青少年育成組織の強化及び地域活動の推進
4　環境の整備及び浄化活動
5　青少年に関する相談及び愛護指導

第二十二回 神奈川県青少年指導員大会
相模原市で開催



色とりどりのあじさいの花の咲く六月十八日、第二十二回神奈川県青少年指導員大会が六年ぶりの知事の出席を得、また相模原市長を始め数多くの来賓の方々のご出席をいただき「ふれあう地域の輪・活躍する若い力」のテーマのもとに相模原市民会館に於て盛大に開催されました。

式典では、主催者団体を代表して神奈川県青少年指導員連絡協議会の渡辺会長、長洲神奈川県知事、地元相模原市の館盛市長また来賓を代表して梅沢県議会議長から大変心のこもったあいさつがあり、引き続き講演に入りました。

講演者には田原米子さんを迎え、高校三年生のとき自殺を図ったことにより重度の身障者になったが、その後みごとに立ち直った自分自身の体験を通して、命の大切さ、生きることのすばらしさ、そして人間だれでもが持っている無限の可能性についての話に会場の皆さんも感動されたのではないでしょうか。

昼休みには、地元相模原市上溝地区の丸崎祭囃子保存会のかわいい子供たちの演技が、緊張している出席者の心をなごませてくれました。

その余韻を残しながら全体協議に入り、会場と発表者が一体となって、子供たちの育成や悩んでいること等が活発に話され、一人ひとりが輝きあふれる気迫と温かい雰囲気の中での話し合いでした。その中でも助言者が、「おとな達が発想の転換をすることが、若い人への活動を推進する上で重要なことである。」と結ばれた言葉が大変印象的でした。

実行委員会

大会テーマ
ふれあう地域の輪　活躍する若い力

青少年指導員連絡協議会機関紙の発行にあたって

神奈川県青少年指導員連絡協議会会長　渡辺芳安

早いもので昭和四十五年に青少年指導員相互の緊密な連帯をはかるため「神奈川県青少年指導員連絡協議会」が結成されてからまもなく二十年になろうとしています。この間私たちの暮らしは高度経済成長のおかげで、これまでに例を見ない豊かなものになりました。街のショーウインドーには世界中の商品があふれています。しかし、反面このような豊かさと引き替えに失ったものも決して少なくはありません。

かつて子どもたちの遊び場だった原っぱには住宅が立ち並び、子どもたちの遊びも屋外から屋内の遊びへ、集団の遊びから個人でできる遊びへとさま変わりしてきました。またこれに加え地域社会での近隣関係も希薄になり、地域での子どもに対する教育力、影響力が相対的に弱まってきたように思えます。

こうしたことは子どもたちの心身にもいろいろ影響を与えているのではないでしょうか。非行等の問題行動も依然として減少傾向は見られませんし、最近では残虐ビデオに影響されたという少年たちによる残忍な事件も起きています。

いまこのような現状の反省の上に立って、各方面で青少年育成活動に対する新しいこころみが始まっています。

これに半い地域での青少年の健全育成の担い手としての青少年指導員に対する社会の期待は、ますます大きなものになっています。

私たち青少年指導員は、この期待にこたえ、二十一世紀を担う青少年のため、時代の要請を先取りした新しい形の活動を行っていかねばなりません。そのためには、われわれ青少年指導員が他の地域と交流を深め、お互いに刺激を得て、活力のある活動をしていくことが必要だと思います。そうした意味から、まだブロック協議会が結成されていない地区では早急にブロック協議会を設立し、市町村協議会相互の連携を進めていただきたいと考えております。

さて、このたび神奈川県青少年指導員連絡協議会では長年の念願でありました連絡協議会機関紙を発行することになりました。すでに各市町村の協議会では色々と特色を持った機関紙が発行されておりますが、この機関紙が各地区での問題や取組みの情報交換の場として、又啓発資料として少しでもみなさんのお役に立つことができれば幸いです。

最後にこの機関紙のためにこころよく原稿をお寄せいただいた各市町村協議会のみなさん、又忙しい中今回の機関紙の編集委員を引き受けてくれたみなさん、ほんとうにありがとうございました。

長洲知事
大会挨拶から

今の社会は、物は豊かですし、お金があればなんでもできますし、子どもたちや若者たちは、たいへん恵まれているようにみえますが、逆にある意味では非教育的環境を、私たちおとながつくってきてしまったような気がいたします。

騒然たる教育論議をやっていただきたいというお願いを、もう7～8年前に、皆さまに、訴えさせていただきました。……

その中から、ご承知のように、ふれあい教育運動が、今全県的に展開中でございます。「ふれあい」というのは、わかりきったことのようですが、子どもから一人前になって行く、そういう人間としての発達の過程においては、いろいろなかたちで自然とふれあい、人とふれあう、この2つの基礎体験をたくさん積んではじめて、一人前のおとなになっていくのだろうと思います。……

若者たちは、皆とのふれあいの機会が乏しくなっていると聞いています。なにか、私どもは、せつない気がいたします。孤独だけでは、困るのではないでしょうか？もちろん孤独ということも、とても大事なことだと思います。……

そうでなければ、自立心は芽生えないと思います。しかし、同時に、フランスのバルザックという作家はこんな言葉を残しています。

「孤独はいいものだということを、われわれは認めざるをえない。けれども、また、孤独はいいものだと話し合うことができる、だれか相手をもつことは、人生の大きな喜びである。」

ぜひ、これからの若者たちが、一本立ちした自立の心をもちながら、同時に、対話、協調、そして連帯の心をつちかって行く、そういう方向で、すくすくと育ってくれればと存じます。

そういう意味で、とりわけ地域で、若者たちと、直接ふれあっておられ、いろいろな体験、経験、知識をお持ちの皆さま方、本当に私は神奈川の宝物であると感じております。

どうぞ、ご苦労が多いと思いますが、若者たちのために、おとなができることを、なんでもやりましょう。目立たないかたちで、お手伝いを若者たちのために、やってあげたいと思います。若者たちに生きるということの喜び、美しさ、ときには悲しさ、いろいろな側面を理解してもらえるように、私たちも努力をいたしたいと思います。皆さまのお力添えを、心からお願い申し上げます。

星空のもと手をつないで 真夜中のウォークラリー

★★★　大和市　★★

今年で、第三回目を迎えた親子ナイト・ウォークラリーが、夏休み第一週の土曜日七月二十二日夜八時に大和引地台公園をスタートで行いました。

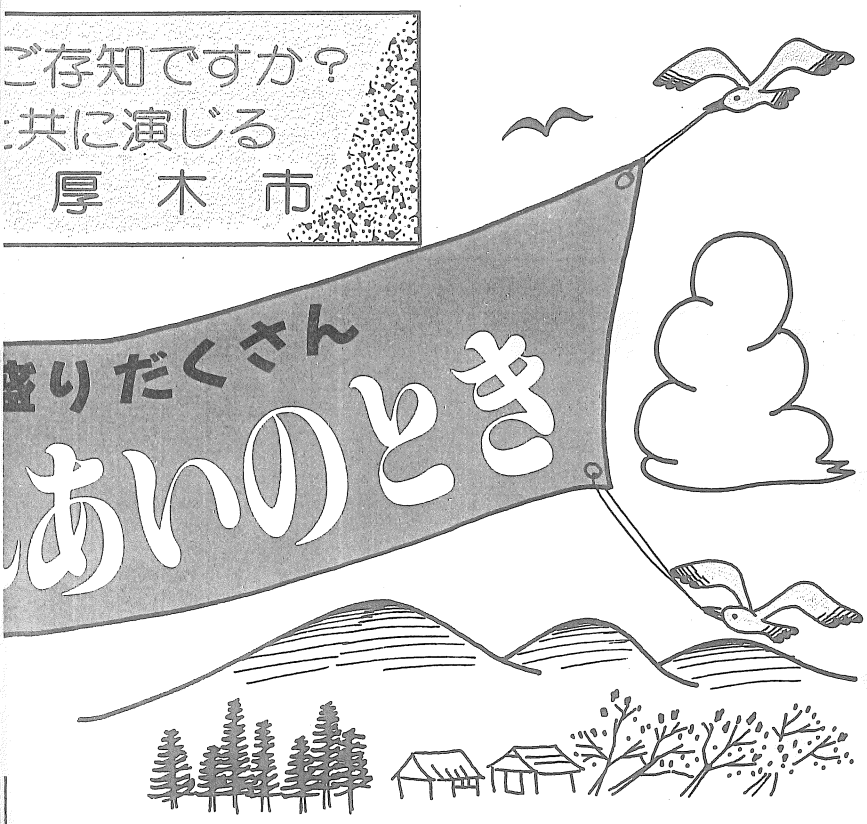
今年は、東西のコースで東側二コース、西側二コースの計四コースで行い、百三組三百七十六名の参加を得て、約八キロのコースに挑みました。

親子ナイト・ウォークラリーの目的は、夏休みの深夜に開催し親子のふれあいの機会を提供すると共に、チームワーク、注意力、決断力を養い、更に市内の史跡名所を、歩くことにより郷土愛を深めることを、目的としています。

実施までの準備は、三つある各専門部会の中の研修事業部会が中心となり企画・立案し、細部にわたっての検討を重ね実施に至りました。

おかげで、参加者の方々から大変喜ばれ、来年もぜひ参加したいという声が、あちらこちらで聞かれました。

天候に恵まれ、事故もなく大変好評のうちに無事終えることができ青少年指導員の連帯感も、より一層強固なものになったと確信します。



子どもたちとのふれあいを求めて ー地元でミニキャンプー

大井町

今年大井町では、初めてミニキャンプを行いました。

将来、本格的なキャンプ教室を開くステップとして、飯盒炊飯とゲームの集いとして八月二十日、町内の小学生五、六年生七十八名と指導者二十二名で、小学校のグランドをお借りして楽しい一日を過ごしました。

午前の部として飯盒炊飯とカレーづくりです。

野菜や肉をふんだんに使い、すべての作業を子供達に分担させ、子供の手によるカレーは、とても美味しく三杯もお替りをする子もいたほどです。

午後は輪になり講師の先生のアコーディオンのもと大きな声をだし、楽しく歌い、コレクトカードにより記憶力を高め、ゲームを行なうことにより、互いにうちとけ大変盛り上がりました。

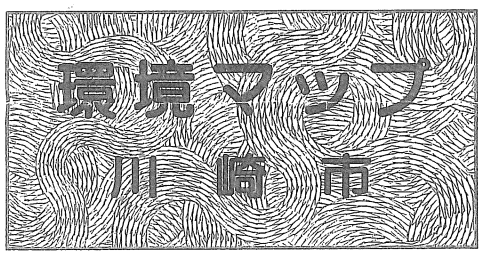
短い日程の中で、子供達と楽しくふれあえた場を、これからも計画していきたいと思います。

みんなでステキな環境づくり

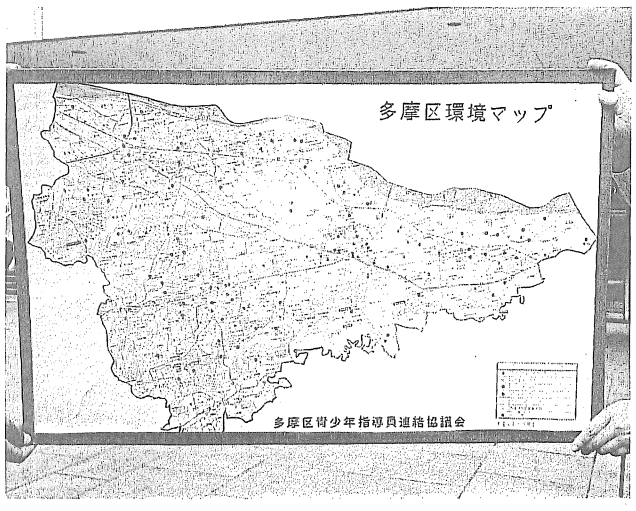
川崎市多摩区青少年指導員連絡協議会では、昭和六十二年から区内各班の代表七名により環境浄化専門委員会を組織し、青少年に係わる環境の変化を取り上げ、「多摩区環境マップ」を作成することになりました。

作成にあたっては、青少年の集まる場所として、ビデオショップ、コンビニエンスストアー・スーパー、コインランドリー、ゲームセンター、パチンコ店、公園、有害図書自販機の七点につき、全指導員が調査し、環境浄化専門委員が手作りで地図として完成させました。

作成中、苦労したことは非常に早い環境の変化で、特にビデオショップ、コンビニエンスストアーの急増が目につきました。



マップの完成後、区内の各中学校や公共機関を対象として配布したところ、小学校からも要望があったため、今年になって追加作成しました。



今後、このマップの利用方法について、配布先に対してアンケート調査を実施し、これからの参考資料にしていただければ幸いです。

育ちゆく青少年のために

寒川町

水と緑の湘南新都市、寒川町の青少年は、町教育委員会を取りまく地域のボランティア諸団体の活動が実りつつあり、明るくのびのびと育っております。

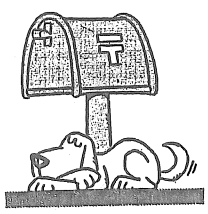
今年の夏休みにも、地域ぐるみのキャンプが三回、スポーツ大会が一回、その他各地域での盆踊りや夏祭りで、青少年は積極的にいろいろな体験をして大きく育っています。

しかし、私たちの町も日増しに宅地開発が進み、青少年の発育において、その必要性の有無にかかわらず、増え続けている新情報に、青少年は興味をもち、次々と触れていきます。

しかし、消化吸収にまでは至らず、必然的に悩みとしての相談を求めて、その消化されないものが、非行化に走り易い現象として表われて来ています。

こうした社会環境の中にあって、青少年は毎日〈〈大きく育つように、エネルギッシュに息づいています。

私たち大人は、青少年が大きく育つように、地域ぐるみの応援をしていかねばならないと痛感しております。



かもめ通信

横浜地区

ジュニアフェスティバル「手づくり紙ヒコーキを飛ばそう」横浜市大会を平成二年二月二十五日（日）十三時より、横浜文化体育館で開催します。

（問い合せ　〇四五ー六二ー二三五三）

（横浜市）

横須賀・三浦地区

九月三日に逗子・葉山の少年ソフトボール代表8チームを集め、逗葉少年ソフトボール大会を開催しました。

（葉山町）

東京・埼玉で起きた連続幼女誘拐殺害事件に関し、青少年育成関係団体合同研修会を開催しました。

（三浦市）

十一月十六日東京学芸大学佐藤先生を講師に迎えて「中学生の現状を考える」をテーマに青少年指導員研修会を中央公民館で行いました。

（鎌倉市）

十一月十日久里浜体育館において、中学校部会対抗中学生バレーボール大会を行いました。

（横須賀市）

県央地区

七月二十二日星空の下、第三回夏休み親子ナイトウォークラリー大会が開催されました。

平成二年二月十八日(日)親子人形劇を伊勢原市民文化会館小ホールで行います。

（伊勢原市）

人口三万弱の町、二十三人の青少年指導員活動の最大の収穫は、相互の親睦が深まり、積極的になったことです。

（二宮町）

足柄上地区

八月十二日、文命中学校グランドにおいて、中学生との地域交流ゲートボール大会を開催しました。

（開成町）

JRガード下の落書消し、草刈り、缶ひろいなど、通学路の整備を重点にとりくんでいます。こどもたちを、これら作業にどう取り込むかが今後の課題です。

（山北町）

十二月下旬、青少年指導員により愛のパトロールを行い、年末年始の非行防止を呼び掛けます。

（大井町）

来春、青少年指導員の企画運営で青少年教室（町内ウォークラリー）を計画しています。

（松田町）

西湘地区

十一月十九日、市内十三中学校代表者による「中学生の主張発表」を足柄小学

東京・埼玉で発生した連続幼女誘拐殺害事件について懇談

楽しかった夏休み各地区イベント

あの日　あの時　ふれ

ペープサートを子どもたち

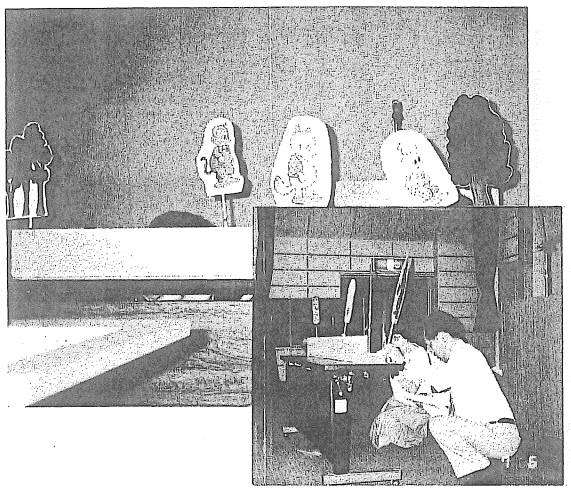
ペープサートは紙に人形を描いてお芝居をするものです。

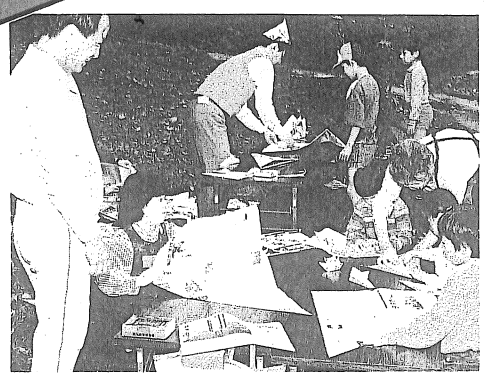
厚木市青少年指導員連絡協議会の文化部会では、数年前からジュニアリーダーや子供たちに対して指導できるように、人形づくりや演技の研修を重ねています。

さて、この夏休み、市内の睦合北地区交通安全の集いで、子供たちが自分でセリフを工夫したり、積極的に取り組もうとする姿勢に深い感銘を覚えました。おとな自身が上手に演じられることよりも、子供たちと一緒になって工夫することが良いので、今後も広げていきたいと思います。

現在、もう一つの課題として、市内に伝わる民話などを、「ペープサート」のオリジナルシナリオに創りあげ、自分たちの身近な物語を演じていこうと考えています。

こうした活動を通じて、子供たちに文化意識の高揚が図られればと、私たちは努力しています。





残虐性ビデオへの対応

三浦市

本全国を震撼させ、子をもつ全ての親にとってやり場のない憤りをもたらしました。

分別も良識もある二十七才の青年によって引き起こされた、この事件の引きがねともなったとされる「残虐ビデオ」について、「まずは、地域から」の観点から地元のレンタルビデオ店の店長さんに呼び掛け、九月十二日、青少年指導員連絡協議会正副議長と業界の実状、で、店内においてアダルトビデオはもちろん残虐ビデオについても青少年の目に触れにくい場所への配置、貸し出しの自粛などを要望し、懇談会に欠席されたレンタルビデオ店については各店を回り自主規制の協力を依頼しました。

今後も市内の青少年健全育成団体と手を携えていくとともに、青少年指導員としての地域活動をさらに推進させていく予定です。

有害看板撤去活動の実践

伊勢原市

伊勢原のまちには、青少年にとって有害環境の一つである有害図書自動販売機が、青少年指導員や補導員を中心とした地域の力によって一台も設置されていません。

ところが最近、市内にテレホンクラブが出来て以来、まちには数多くの捨て看板が氾濫し、青少年を取り巻く環境も悪化しつつあります。

こうしたことから、昨年十月青少年健全育成強調月間に先がけ、青少年指導員の環境浄化活動の一環として、有害看板の一斉撤去を補導員や子ども会育成会、母親クラブその他各関係行政機関の協力を得て実施しました。

当日は、八人グループで六班の編成を組み市内を六コースに分けて撤去活動を行い、五〇〇本の捨て看板を回収し市内を一掃しました。さらに今年に入り、八月には「青少年を非行から守る強調月間」に併せて二回目を実施し、前回を超える五五〇本の看板を撤去しました。

しかし、こうした撤去活動も後をたたない業者との根気作戦となっているが、今後もこの活動を継続しながら地域指導者のみならず地域ぐるみの運動として、発展させるとともに活動の定着化を図っていきたいものです。

育成の輪をひろげて
子どもの日のつどい

逗子市

逗子市の連絡協議会は、PTA、子ども会、ボーイ・ガールスカウトなどの青少年育成団体と、所管の市教委推薦の合計二十五名の青少年指導員によって構成されています。毎月一回第一金曜日の夜、定例会が開かれ、議題の審議、研修、情報交換などが行われます。

今年度は、市教委主催の「こどもの日の集い（写生大会）」に、メンバーの協力により、新たに野点、紙工作教室、とん汁づくりなど多彩な企画を加えて実施し、参加した子どもたちに喜ばれました。また九月には、隣接する葉山町の青少指連との共催で、逗子と葉山の子どもたちの交流を深めるため、親善ソフトボール大会を開きました。

さらに地域活動としては、地区ごとの青少年関係団体、学校、PTAなどで構成する「青少年育成推進の会」の中核メンバーとして活動しています。

「推進の会」未組織地域では、「愛のパトロール」などの機会をとらえ、地域の関係団体間の橋渡し役として、連携をすすめる努力をしています。

十一月四、五日、渕野辺公園にて、親子ふれあい広場が開催されました。

（相模原市）

十一月中旬、県立座間青少年会館で、第十回青少年芸術祭「美術文芸展」に参加しました。

（座間市）

これからの活動として、オアシスアンケート結果報告書の作成、及びオアシス看板等の設置を予定しています。

（海老名市）

ウォークラリー大会のつど作成したコースをまとめ、コマ地図ガイドを作成し、市民に配布します。

（綾瀬市）

湘南地区

十月二十二日、平塚市立崇善小学校体育館で青少年指導員を対象として、レクリエーションゲーム講習会を実施しました。

（平塚市）

十一月九日、県外研修として、山梨県の甲府少年鑑別所に伺いました。

（藤沢市）

十一月九日(土)茅ケ崎市民文化会館小ホールで「青少年育成のつどい」を行いました。

（茅ケ崎市）

十一月十日（日）地域の人々の交流を深めるため、真鶴町民センターにおいて「ふれあいのつどい」を開催しました。

（真鶴町）

いろいろな行事を通じて家庭や学校とふれあい、子どもたちのパイプ役として活動しています。

（箱根町）

津久井地区

ふれあいをメインテーマとした、来年度の「ウォークラリー大会」のコース作りに、とりくんでいます。

（城山町）

七月二十五日(火)～八月十九日(土)の間、夏休み子供芸術鑑賞会（親子映画会）を開催。十四会場で延べ一二〇〇人が参加。特に公園で星空の下での映画会は大盛況で、子ども達と共に楽しい日々を過ごしました。

（津久井町）

十一月十八日、青少年健全育成推進者が一堂に集まり、町役場において、問題提起や情報交換を行いました。

（相模湖町）

平成二年一月二十一日、町内の青少年自身の運営による「新春青少年サッカー大会」を町スポーツ広場において行います。当協議会が全面的にバックアップします。

（藤野町）

（小田原市）

平成元年度図書自動販売機等の実態調査結果について

平成元年7月の「青少年を非行から守る全国強調月間」の期間中に青少年指導員のみなさんほか地域の青少年指導者の方々に主体となってもらい自動販売機・ビデオレンタル店の実態調査を行いました。その集計結果の概要は次のとおりです。

自動販売機設置状況

設置台数

県内の自動販売機設置総台数は六四八台であった。前年度の六五三台と比べて五台の減少であり、昭和五六年度をピークに年々減少傾向にある。また放置されている自動販売機が二二台あり、実稼働台数は六二六台であった。

地区別の設置台数は横浜地区二二八台が最も多く、以下県央地区一二八台、湘南地区一一七台、川崎地区一〇二台、西湘地区二六台、横須賀三浦地区及び足柄上地区各二二台、津久井地区三台の順になっている。

増減の傾向をみると、増加は湘南地区四台、西湘地区三台であり、減少は県央地区六台、川崎地区五台、津久井地区一台であった。

また横浜地区、横須賀三浦地区は増減なしであった。

収容内容

自動販売機の収容内容は、ポルノ誌専門が二五八台、ポルノ誌とポルノビデオ混入が九二台、ポルノ誌と一般誌混入が九〇台、ポルノ誌やポルノビデオ混入が八八台、ポルノビデオ専門が四九台、一般誌専門が四六台、大人の玩具専門が二台、一般ビデオ専門が一台であった。

設置場所の環境

自動販売機設置場所は商店街一六一台、住宅街三〇二台、その他一八五台であり、前年と比べて商店街で五八台減少、住宅街で七一台増加、その他で一七台減少であった。

また、学校周辺（半径二百メートル以内）に設置されている自動販売機は六四八台中一一二台で、前年より四台減少している。

ビデオレンタル店の状況

営業店舗数

営業店舗総数は七三六店であり、前年と比べて三四店増加している。

地区別で最も多いのは横浜地区で二一七店、次いで県央地区一五一店、湘南地区一二九店、川崎地区一二七店、横須賀三浦地区七三店、西湘地区三十店、足柄上地区六店、津久井地区三店という結果であった。

営業実態等

貸ビデオ店は専門店が五七七店で全体の七八・四パーセントを占め以下書店六七店、電器店二五店、レコード店二五店、その他四二店など兼業の営業が一五九店であった。

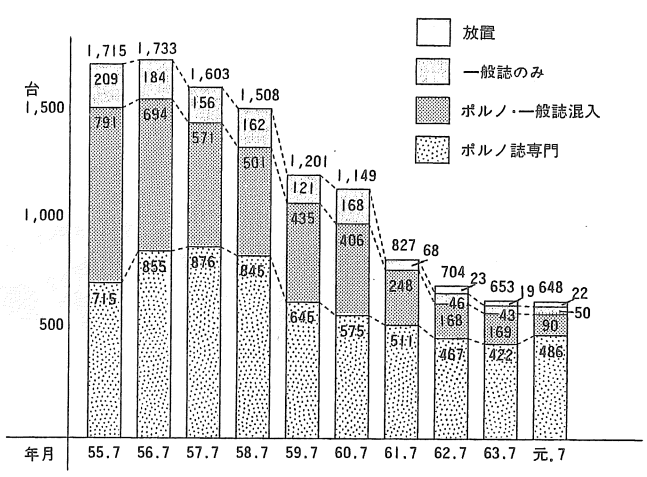
また、全貸ビデオ店のうち六八五店（九三・一パーセント）がアダルトビデオテープを取扱っている。このうち、成人コーナーの設置等自主規制をしている店は四六三店であった。

なお、貸ビデオ店の営業場所は商店街に四八九店、住宅街に一五二店、その他九五店であった。

各市町村別自動販売機・ビデオレンタル店数

市・町・村 ＼ 設置数及び店舗数		自動販売機設置総台数 元	63	増減	ビデオレンタル店数 元	63	増減
横浜市		228	228	0	217	204	13
川崎市		102	107	△5	127	121	6
横須賀・三浦	横須賀市	14	17	△3	41	50	△9
	鎌倉市	8	5	3	22	18	4
	逗子市	0	0	0	3	3	0
	三浦市	0	0	0	5	6	△1
	葉山町	0	0	0	2	2	0
	小計	22	22	0	73	79	△6
県央	相模原市	58	65	△7	66	61	5
	厚木市	16	14	2	23	21	2
	大和市	7	11	△4	34	33	1
	海老名市	33	29	4	10	8	2
	座間市	7	7	0	10	8	2
	綾瀬市	4	5	△1	4	6	△2
	愛川町	2	2	0	4	3	1
	清川村	1	1	0	0	0	0
	小計	128	134	△6	151	140	11
湘南	平塚市	20	19	1	24	19	5
	藤沢市	30	30	0	42	47	△5
	茅ヶ崎市	26	28	△2	18	15	3
	秦野市	19	14	5	26	21	5
	伊勢原市	0	0	0	9	9	0
	寒川町	21	21	0	5	4	1
	大磯町	1	1	0	2	0	2
	二宮町	0	0	0	3	6	△3
	小計	117	113	4	129	121	8
足柄上	南足柄市	4	4	0	3	2	1
	中井町	0	0	0	1	0	1
	大井町	3	5	△2	1	1	0
	松田町	4	5	△1	0	1	△1
	山北町	10	7	3	0	0	0
	開成町	1	1	0	1	2	△1
	小計	22	22	0	6	6	0
西湘	小田原市	22	19	3	24	26	△2
	箱根町	0	0	0	3	0	3
	真鶴町	0	0	0	0	0	0
	湯河原町	4	4	0	3	3	0
	小計	26	23	3	30	29	1
津久井	城山町	0	0	0	1	1	0
	津久井町	0	1	△1	3	2	1
	相模湖町	3	3	0	0	0	0
	藤野町	0	0	0	0	0	0
	小計	3	4	△1	3	2	1
合計		648	653	△5	736	702	34

県下の図書等自動販売機の推移



貸出してます　非行防止ビデオテープ

今年は、暴走族による殺人やウサギの惨殺など青少年によるショッキングは事件が目立ちました。

皆さんも、青少年指導員として心を痛められたことでしょう。

青少年の問題行動の原因を一言で言うことはできませんし、解決のための特効薬があるわけでもありません。しかし、青少年の問題行動は大人社会を反映しているとも言われています。

青少年にとって好ましい環境づくりを進めるためには、地域の人々の非行防止に対する認識を深めることが大切なことだと思います。

そこで、視聴覚に訴える効果的な啓発資料として、県では、青少年の性、親子のあり方、登校拒否、シンナーの乱用防止、万引防止などのビデオテープを無料で貸出しています。地域での集会や研修等に御利用下さい。

「ビデオの一部――ひとりだちの詩／価値ある償い／水色のハンカチーフ／アルコールの害／生命のシグナル／代打とうさんの出番です／恐るべきシンナーの害／父と母の二人三脚／許すないじめ／いじめをなくす

全部で38種類

問い合わせ先

青少年室㈹三四七一

横浜、川崎を除く各地区行政センター県民部（青少年課）

"名前をつけてください"　第二号は中学生特集を！

わたしたち青少年指導員が地域での青少年活動を行う場合、主力はどうしても小学生を対象としたものが多くなるのではないでしょうか。

中学生になると生活そのものが学校生活（学習・部活・進学など）に重点がおかれ、どうしても地域との係わりが小学生時代に比べ希薄になるように思えます。しかし反面、中学生は少年非行等の面から見ると一番問題の多いむずかしい年頃でもあります。このような中学生に対して地域ではどのような取組みをしてはいるのでしょうか。第二号では「中学生特集」を行いたいと思います。ぜひ各地区での中学生を主体とした取組み、問題点その他ご意見をお寄せ下さい。

又、機関紙の名前をみなさんから募集いたします。これからも親しんでいただけるようなよい名前をつけて下さい。

原稿及び機関紙の名称送付先
〒二三一 横浜市中区日本大通一　神奈川県県民部青少年室地域環境班
電話 〇四五（二〇一）一一一㈹三四七一
〆切　平成二年一月二十日

あとがき

理事からも一人編集委員にということでお手伝いしました。この機関紙がこれから回を重ねるごとに問題提起の場として、みなさんの活動のお役に立てればと思っています。（志村）

思いがけず編集の一員となり、毎回楽しく集いました。この創刊号は私にとって未知の人達とのめぐり会い、又、輪が広がりました。（市川）

青少年指導員になって二年目、迷いや壁にぶつかる時期に、会報作りに参加。創造する喜びと素敵な他市町村の人達との出会いで、青指の役目や意義を再認識。千載一遇に感謝。（丹羽）

編集に携わり、？年ぶとりの兆しが現れ始めたわが身に、少しはクスリになるかと期待したけれど、新しい出会いや発見のトキメキで、又豊かになりました。（福岡）

ムズカシイ、私には無理難題でした。しかし大河も源流の一滴から、その水滴になれたかな？（星野）

協議会だより創刊号の編集委員をさせて頂きましたが、とにかくとまどうことばかりでした。

それでも他のスタッフの方が、腕まくりをして頑張ってくださったので、手づくりの良さを感じて頂ける会報が出来たと喜こんでいます。（秋本）